

○中島源陽委員長 続いて、無所属の会の質疑を行います。

なお、質疑時間は答弁を含めて五分です。菅間進委員。

○菅間進委員 よろしくお願いします。

ワクチン接種の促進と安全・安心を確保した社会経済活動の再開に係る予算について、お尋ねいたします。

大規模接種会場での接種三回目の工程と接種人数をどのように想定しているのか。これまでの県内の接種状況や大規模接種会場での実績を踏まえ、まずお聞かせいただきたいと思います。

○村井嘉浩知事 県内における一回目と二回目を合わせた総接種回数は延べ三百六十万回、二回目の接種率は約八七％です。大規模接種会場では、この総接種回数の一四％に当たる延べ約五十二万回の接種をしております。県内の接種率向上に大きく貢献していただきました。なお、追加接種につきましては市町村から発行された接種券をお持ちの全ての県民を対象とし、二十日からスタートいたします。初回は八か月以上経過した方を対象といたしますので、予約状況に応じて接種者数を決めていくことになります。県としては国の方針に従わざるを得ませんが、できるだけ早く確実に前倒しの接種を推進してまいりたいと考えておりまして、このため全国に先駆けて二十日からスタートいたしますが、どれぐらい接種するのかということについては予約状況によるといふことで、ここではつきり何人ということは申し上げられないということでありまして、大体前回と同じぐらいいければいいなと思っております。

○菅間進委員 今、数字が出ましたけど、十二月六日時点のデータを見ると第一回目が八一・一％、第二回目が七九・四％となっております。一・七ポイント減というのはどのようなことが起因しているのか、その後変化があると思いますけど、三回目に対して大規模接種会場を含め、もちろん希望する方、健康上の理由などで接種できない方を念頭に入れてのことになりますか、どのように見ているのか、お尋ねいたします。

○伊藤哲也保健福祉部長 今月九日時点でありまして、一回目の接種者数が百八十二万六千五百八十一人、二回目が百八十万九千二百四十一人で、二回目の接種を受けていない方は、二回目接種の接種間隔にまだ達していない方も含めて一万七千三百四十人、一％弱の方が二回目の接種をしていない状況です。その要因ですが、一回目の接種後の

副反応による体調不良になった経験などから二回目の接種は受けないと判断された方が一定程度おられたものと考えております。これから追加接種を推進していくに当たりましては、重症化予防や感染拡大防止の観点から、追加接種が本人にとって有益であることをしっかりと御理解いただく必要があると思っております。県としては、更なる接種率向上を図るため、市町村の初回接種の会場の確保や未接種者及び追加接種対象者への周知活動が効果的に実施できるよう、しっかりと支援してまいりたいと考えております。

○菅間進委員 PCR等検査無料化についてですが、オミクロン株が感染の中心に置き換わることが想定され、ブレークスルー感染が高まることが予測されます。対象者の利用が増加することが想定されますが、検査しやすさ、利便性を含め、体制整備についてどのように想定しているかお尋ねいたします。

○佐藤達哉復興・危機管理部長 現在、感染状況が落ち着いていることもありまして、事業者・利用者の双方がワクチン・検査パッケージ制度のメリット等を実感しにくい状況となっておりますが、新たな変異株の感染拡大が懸念される中で、制度の急速な浸透・普及も想定されているところでございます。こうした事態にも対応できるよう来年三月末までの三十一万回分の検査と、これに必要な検査場所の整備に要する費用を現在見込んでおりまして、身近な場所に十分な検査場所を確保することや検査方法の標準化など、住民の皆様の利便性の確保にも配慮してまいりたいと考えております。

○菅間進委員 次に、拡大傾向時の一般検査体制をどのように構築するのか、ワクチン・検査パッケージ等定着促進費体制とのリンクなど、その辺りの体制づくりについてお尋ねいたします。

○伊藤哲也保健福祉部長 一般検査事業の検査体制については民間検査機関のほか、宮城県薬剤師会の協力も得ながら薬局を対象に募集を行った上で、検査促進計画を国に提出し事業を実施します。また、ワクチン・検査パッケージ等定着促進事業と同様に店舗や駐車場の一角等に専用スペースを設け、適切な換気やパーティションによる飛沫感染対策を行った上で検査を行いたいと思います。また、設置場所ですけれども、事業者と調整していくこととなりますが、先行して行われる予定となるワクチン・検査パッケージ等定着促進事業の実施箇所と同一になるものも多いと考えております。

○菅間進委員 市中ではかなり緩んでおりますので、それについて感染予防の徹底が必

要だと思いますが、最後にお尋ねいたします。

○佐藤達哉復興・危機管理部長 世界的な感染拡大が懸念されておりますオミクロン株のような新たな変異株であっても、県民の皆様引き続き要請しております三密の回避、マスクの着用、手洗い等の日常生活における基本的な対策の徹底が感染防止に有効であると考えております。県では専用のホームページや防災速報アプリ等の媒体を活用しまして、今回の事業実施に係る周知などを行うこととしておりますが、これに併せて、市中感染防止に向けた基本的な感染対策の徹底について、再度周知を図ってまいりたいと考えております。